

# 2019年度事業計画

**福岡国際空港株式会社**

# 単年度計画：取組方針及び目標値

## 取組方針

(※ 利便性向上に関する施策の基本的な考え方 **Free Fast Fun**)

空港運営の民間委託初年度の位置付けとなる2019年度は、万全の安全・保安体制を構築し、安定的な空港運営を確実に実行するとともに、国内・国際合わせて旅客数2,500万人超の利用客が見込まれることに対応して、旅客サービス・利便性(3つの「F」)※の向上を図ります。また、2020年の平行誘導路二重化後の増枠に向けたネットワークの拡充のため、東・東南アジアの新規路線誘致に注力します。

## 旅客数：目標値

	2017年度	2019年度
旅客数	2,398万人	2,510万人
国内線 (増加数)	1,765万人	1,810万人 (+45万人)
国際線 (増加数)	633万人	700万人 (+67万人)

## 財務指標




項目(単位：億円)	2019年度
営業収益 (内、空港運営事業)	505 (102)
営業費用 (運営権償却費を含む)	491
営業利益	14
当期純利益	▲65

## 単年度計画：具体的な取組み事項

### 旅客増・ネットワーク拡充に向けて

- 国による平行誘導路二重化後の増枠（2020年）の充足に向けたエアライン誘致専任部署によるエアラインセールスの実施、航空ネットワークの拡充に取り組む
  - ・ 東・東南アジアの新規就航を中心にネットワークを拡充
  - ・ ハワイ路線の継続運航に向けたエアラインとの協議実施

### 旅客サービス・利便性の向上

-  国内線地区：東側再整備工事の完工により、国内線ターミナルをリニューアル
-  国際線ターミナルの出発手続き時間の短縮および混雑緩和に向け、チェックインカウンター増設およびインラインスクリーニング設置工事の早期着手
-  国際線免税店舗の拡張(200㎡)により商品展開充実

## 単年度計画：具体的な取組み事項

### 安全・保安の強化

- オペレーションセンター(F-APOC)※の導入・運用安定化（※運用・監視・予測に係る情報の一元管理）
- 大規模自然災害への対策強化、空港事業継続計画(BCP)の充実
- 現業部門、統括部門、外部有識者による重層的モニタリングの着実な実施
- 回転翼機能のスムーズな移転と移転後の安全な運営の実施

### 空港活性化を目的とする設備投資：約140億円

- 国内線：東側再整備工事、  
立体駐車場・複合施設の整備(設計等)
- 国際線：免税店舗の拡張、立体駐車場・旅客ビル  
大規模拡張の整備(設計等)

### 空港機能維持を目的とする設備投資：約30億円

- 空港基本施設の維持管理
- 旅客ビル施設に関する修繕・更新、他



国内線ターミナル：  
旧2ビル接続部吹き抜け箇所

### 福岡県の空港の将来構想の実現に係る協力方針

24時間利用可能な空港、発着枠に余裕がある北九州空港の特性を活かし、

- 福岡空港では発着枠を取得できない、または運用時間外での就航を希望するエアラインの誘致
- 北九州空港と一体となり福岡・九州のプロモーション活動を推進